

44年の歴史に幕

大崎第一中学校閉校式

大崎第一中学校（今村克行校長、生徒数66名）の閉校式が3月15日（土）に開催され、地元住民や関西などから、卒業生約350名が出席しました。

この大崎第一中学校は、その前身を昭和22年5月に開校した野方村立野方中学校とし、昭和30年に町村合併により大崎町立野方中学校となり、昭和45年に持留中学校と統合し、同年4月に開校以来、2,832名の卒業生を送り出しました。開校時の595名をピークに生徒数は減少の一途を辿り、また、近年の少子化の影響もあり、現在の生徒数は66名まで減少し、3月末をもって44年の歴史に幕をおろすことになりました。

同校は、校訓である『自立剛健・友愛』の精神で、勉学や部活動はもちろんのこと、文化活動やボランティア活動にも積極的に取り組んできました。部活動では、男子サッカーやバスケットボール、軟式野球、卓球などが盛んで、優秀な成績を残しました。文化活動では、音楽コンクールにおいて最高評価である『金賞』を受賞し、実用英語技能検定においても『学校努力賞』、また、特に力を注がれていた、校内環境整備においても『全国花いっぱいコンクール』で『優秀賞』を受賞するなど、築かれてきた伝統と崇高な精神は今後、新生『大崎中学校』へ引き

継がれ、新しい仲間と切磋琢磨しながら新たな歴史と伝統が築かれていくこととなります。

閉校式では、PTAを代表して森屋隆道さんが「長い生徒では保育園から現在までクラス替えもない兄弟みたいなクラスメイトだったと思いますが、これからは、生徒数も増えて楽しみも倍増することでしょう。生徒それぞれがこれまで以上に自分自身を磨いていただきたいと思っています。」と話され、最後の校長となった今村校長は「この閉校式は、学校が無くなる寂しい式となるだけではなく、地域にとって未来を考える日になってほしいと思います。また、ふるさとで活動した子どもたちは、やがて野方や大崎町のために役立つ人材に育ってくれるものと期待しています。」と話されました。また、生徒代表の村永崇征くんが、「プルタブやエコキャップ、古切手回収など先輩方から引き継いでこれまでに3台の車椅子を寄贈することができましたが、自分たちだけではこれだけの成果は出せなかったと思います。いつも私たちを見守ってくださった地域の方々の協力に感謝すると同時に野方の地に生まれ、ここで育つことを本当にうれしく思います。」と述べていました。その後、校旗が生徒から校長そして町長へと返納されました。

